

# セゾン・ グローバルバランスファンド

追加型投信/内外/資産複合

## 交付運用報告書

第17期（決算日 2023年12月11日）

（作成対象期間 2022年12月13日～2023年12月11日）

第17期末(2023年12月11日)	
基準価額	22,351円
純資産総額	412,876百万円
第17期	
騰落率	13.8%
分配金(税込)合計	-円

- ・騰落率は、小数点以下第1位未満を四捨五入しております。
- ・純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順で閲覧・ダウンロードいただけます。  
<閲覧方法>  
右記URLにアクセス⇒[商品ラインアップ]⇒[セゾン・グローバルバランスファンド]⇒[運用状況・レポート]⇒[レポート・動画レポート]
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

### 受益者の皆さまへ

平素は「セゾン・グローバルバランスファンド」に格別のご愛顧を賜り、厚く御礼を申し上げます。この度、第17期決算を行いましたので、当期の運用状況をご報告いたします。

当ファンドは、米国バンガード社が設定したインデックス型の外国投資証券への投資を通じて、世界各国の株式および債券に実質的に分散投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目的として運用を行います。当期間も変わらず、この方針に基づき運用を行って参りましたことを合わせてご報告申し上げます。

今後も、皆さまの長期資産形成のお役に立てるよう、引き続き努めて参りますので、より一層のお引き立てを賜りますよう、お願い申し上げます。



## セゾン投信

### ■お問い合わせ先

セゾン投信株式会社 お客さま窓口  
〒170-6048 東京都豊島区東池袋3-1-1  
[ホームページ] <https://www.saison-am.co.jp>  
[電話番号] 03-3988-8668  
[営業時間] 9:00～17:00（土日祝日、年末年始を除く）

## 運用担当者の紹介

セゾン・グローバルバランスファンドは、ファンド・オブ・ファンズの仕組みを活用して、世界の優れたリソースを活用しながら、日本の生活者の方の長期の資産形成に資することができるよう、不確実な市場の予想に頼ることなく、長期的なリターンと幅広い分散によるリスクの軽減を重視して、チームで運用を行っています。

マルチマネージャー運用部長、ポートフォリオマネージャー

### 瀬下 哲雄

#### 主な役割

投資戦略の策定、具体的投資方針の策定

運用経験年数 17年

#### 経歴

1996年 上智大学経済学部経営学科卒業

2006年 セゾン投信入社、2007年3月のファンド設定時より運用を担当し、2011年よりポートフォリオマネージャー、2014年から運用部長、2021年から現職。



### 運用体制の変更について

2023年6月28日をもって2007年4月より代表取締役を務め、2014年3月よりチーフインベストメントオフィサー（CIO）を兼任しておりました中野晴啓氏が退任しました。以後、当社はCIOを置いておりませんが、CIOが指示してきた基本的な運用の方向性は、2007年3月にファンドが設定されて以来、16年以上一貫して運用の実務を担ってきたマルチマネージャー運用部にしっかりと共有されており、もちろん目論見書に記載されているファンドの運用方針にも変更はなく、引き続き運用体制の強化を図りながら、皆さまの長期の資産形成に資するよう努めてまいります。

マルチマネージャー運用部長 瀬下 哲雄

### ◎受賞実績



**「R&Iファンド大賞2023」  
優秀ファンド賞を受賞しました。**

格付投資情報センター（R&I）の選定する「R&Iファンド大賞2023」において「投資信託部門バランス型（標準）」で「優秀ファンド賞」を受賞しました。  
受賞は3年連続となります。

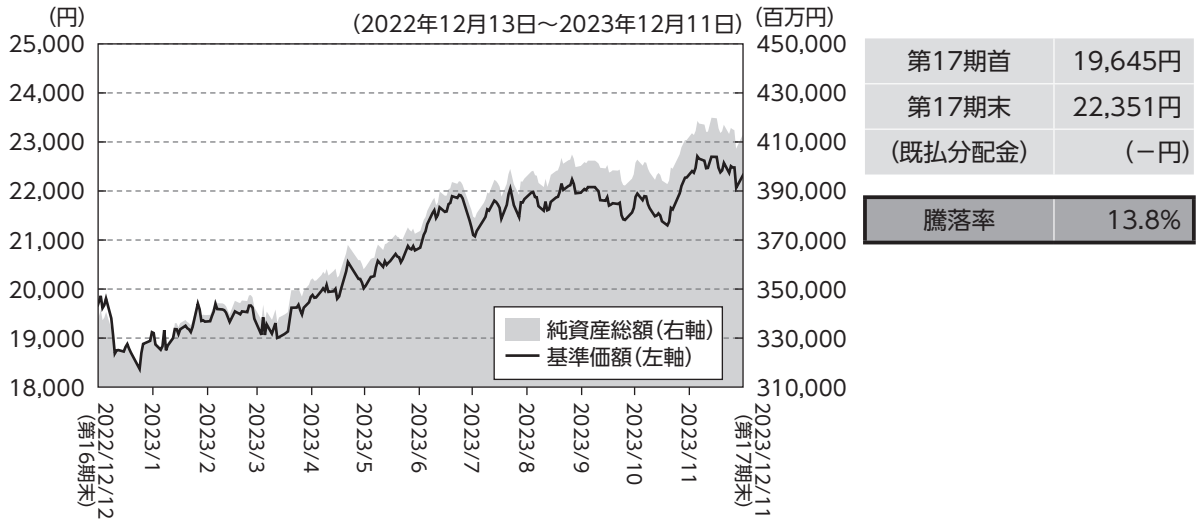


**「リフィニティブ・リッパー・ファンド・アワード・ジャパン2023」  
最優秀ファンド賞を受賞しました。**

「リフィニティブ・リッパー・ファンド・アワード・ジャパン2023」において、投資信託部門 評価期間「10年」/分類「ミックスアセット 日本円 バランス型」で「最優秀ファンド賞」を受賞しました。  
受賞は2年連続となります。

## 運用経過の説明

## 期中の基準価額等の推移



- ・当ファンドには、ベンチマークはありません。
- ・分配を行っていないため、分配金再投資基準価額は表示しておりません。
- ・表示されている基準価額が、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものとなります。
- ・上記騰落率は、小数点以下第1位未満を四捨五入して表示しております。

**ここをCHECK!**

## 【基準価額の主な変動要因】

当期は、株式に投資するファンドの上昇と対ドル、対ユーロでの円安が基準価額の上昇要因となりました。

## &lt; 基準価額のプラス要因 &gt;

バンガード・500・インデックス・ファンド (米ドル)
対ドルでの為替レート (円安)
対ユーロでの為替レート (円安)
バンガード・ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド (ユーロ)
バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド (円)
バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド (米ドル)
バンガード・U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド (米ドル)
バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド (ユーロ)

期中騰落率  
13.8%

バンガード・パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド (米ドル)
バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド (円)

## &lt; 基準価額のマイナス要因 &gt;

## 1万口当たりの費用明細

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	(2022年12月13日~2023年12月11日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社)  (受託会社)	103円 (55) (40)  (7)	0.495% (0.267) (0.193)  (0.035)	(a) 信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率 ・委託した資金の運用の対価 ・交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 ・運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用  (監査費用)  (その他)	0  (0)  (0)	0.001  (0.000)  (0.001)	(b) その他費用= $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ ・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・その他は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・移転等に要する費用
合 計	103	0.496	
期中の平均基準価額は20,743円です。			

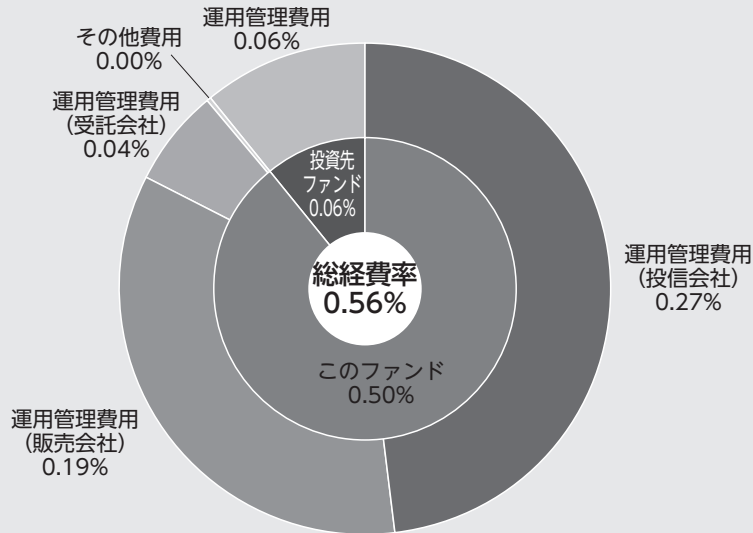
- ・期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- ・各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。
- ・財産維持手数料は当期は発生しておりません。
- ・各金額は各項目ごとに円未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。
- ・各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

## 👉 ここをCHECK!

<参考情報>

### 総経費率

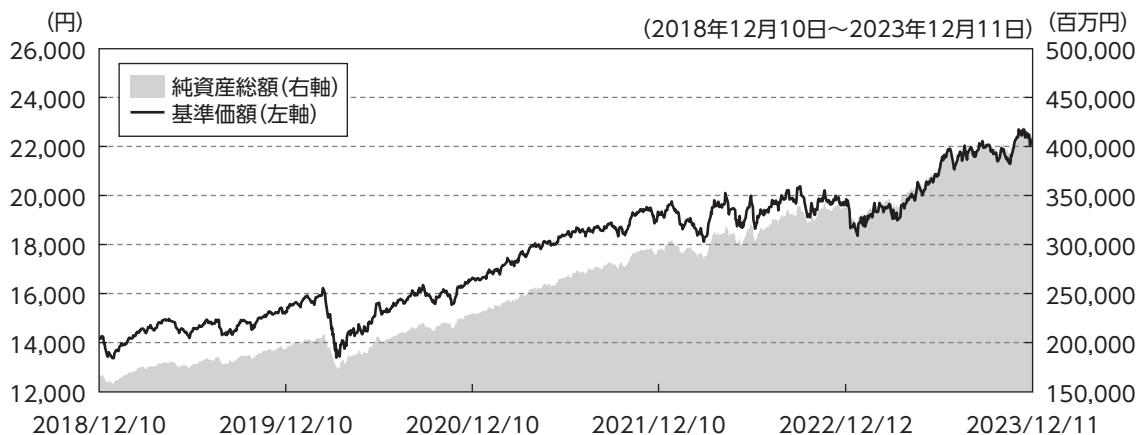
当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は0.56%です。



総経費率(①+②)	0.56%
①このファンドの費用の比率	0.50%
②投資先ファンドの経費率(運用管理費用以外の費用を含む)	0.06%

- ・①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
- ・②の費用は、各月末の投資先ファンドの保有比率に当該投資先ファンドの運用管理費率を乗じて算出した概算値です。
- ・各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。
- ・各比率は、年率換算した値です。小数点以下第2位未満を四捨五入して表示しているため、合計が一致しない場合があります。
- ・投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券です。
- ・①の費用と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。
- ・上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移



	2018年12月10日 決算日	2019年12月10日 決算日	2020年12月10日 決算日	2021年12月10日 決算日	2022年12月12日 決算日	2023年12月11日 決算日
基準価額 (円)	14,200	15,268	16,651	19,206	19,645	22,351
期間分配金合計(税込) (円)	-	-	-	-	-	-
基準価額の騰落率 (%)	-	7.5	9.1	15.3	2.3	13.8
参考指数の騰落率 (%)	-	8.3	8.7	16.8	1.0	13.3
純資産総額 (百万円)	166,494	194,260	230,238	294,071	337,818	412,876

- ・当ファンドにはベンチマークがないため、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数のMSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(配当込)とブルームバーグ・グローバル国債：G7インデックスを50%ずつ組み合わせた、委託会社が計算した合成指数を参考指数として記載しております。
- ・参考指数は、基準価額の反映を考慮して、2営業日前のものに、当日のわが国の対顧客電信売買相場の仲値を利用して円換算しております。
- ・上記騰落率は、小数点以下第1位未満を四捨五入して表示しております。
- ・純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。



## ここをCHECK!

&lt;参考情報&gt;

当期末(2023年12月11日)と5年前(2018年12月10日)の比較は以下のとおりです。

基準価額の騰落率(5年)	57.4%
参考指数の騰落率(5年)	57.2%
純資産額の増加額(5年)	246,381百万円

・騰落率は年率換算していません。

## 投資環境

### 【株式市場の概況】

株式市場は上昇しました。

期の初めは、ゼロコロナ政策の終了により中国経済の回復への期待が高まったほか、エネルギー価格が低下したことを背景に欧州を中心に先行きへの悲観的な見方が後退したことを受けて上昇しました。3月には米国で地方銀行が破綻したことをきっかけに金融不安が高まって下落する局面がありましたが、その後は落ち着きを取り戻して反発しました。4月から5月にかけては物価の上昇が続いていることを背景に米国や欧州で金融引き締め観測が強まるなかでも、景気の先行きに対する楽観的な見方が広がって堅調な展開となりました。6月から7月にかけては人工知能(AI)の普及への期待が高まったことを受けて米国のハイテク企業を中心に上昇しました。8月以降は米国を中心に金融引き締めが長期化するとの見方を背景に先行きへの不透明感が強まったほか、欧州や中国で景気の低迷が確認されたことを受けて下落基調となりました。10月には米国で長期金利が上昇したことを受けて下落する局面がありましたが、11月以降は物価が落ち着きつつあるとの見方を背景に、米国や欧州で政策金利の早期引き下げ観測が強まったことを受けて上昇しました。

米国は、景気が底堅く推移するとの見方が強まるなかで、人工知能(AI)の普及などによりハイテク企業の収益拡大期待が高まって上昇しました。欧州は景気が低迷を続けたものの先行きに対する悲観的な見方が後退して上昇しました。日本は株価の相対的な割安感が意識されるなかで企業価値向上の取り組みが本格化することへの期待が高まり、割安株を中心に上昇しました。新興国はゼロコロナ政策の終了後も経済活動が低迷したことを受けて中国が下落した一方で、韓国、台湾、インドなどが上昇し、全体でも上昇しました。

### 【国債市場の概況】

国債市場は米国が上昇し、日本とユーロ圏が下落しました。

期の初めは、米国や欧州で物価の上昇が続くなかで金融引き締め観測が強まって下落し、1月には金融引き締め観測が後退して上昇したものの、2月には再び金融引き締め観測が強まって下落しました。3月に米国で地方銀行が破綻したことをきっかけに金融不安が高まり、安全資産としての需要が高まって上昇し、4月まで堅調に推移しました。5月以降は米国や欧州で物価の上昇幅が縮小傾向となったものの、米国で金融緩和が長期化するとの見方が強まったことを受けて下落基調となりました。9月には一部の産油国が減産を発表したことをきっかけに原油価格が上昇し、物価上昇観測が強まって下落しました。10月は原油価格が反落したことを背景に底堅く推移し、11月以降は米国や欧州で物価が落ち着きつつあるとの見方が広がり、政策金利の早期引き下げ観測が強まったことを受けて上昇しました。

米国は、連邦準備制度理事会(FRB)が次第にペースを落としながらも7月まで政策金利の引き上げを行ったほか、財政赤字の拡大により国債発行額の増加が見込まれているものの、物価の伸びが落ち着きつつあることを背景に政策金利の早期引き下げ観測が強まったことを受けて終盤に反発しました。ユーロ圏は欧州中央銀行(ECB)が次第にペースを落としながら9月まで政策金利の引き上げを行ったものの、物価の伸びが落ち着きつつあることを背景に政策金利の早期引き下げ観測が強まったことを受けて終盤に反発しました。日本は、日本銀行が金融緩和を継続する方針を示しているものの、国内でも物価の上昇が確認されて金融緩和の縮小観測が強まるなかで、日本銀行が長短金利操作における長期金利の上限を徐々に引き上げたことを受けて下落しました。

### 【為替市場の概況】

円は下落し、対ドル、対ユーロで円安となりました。

高金利通貨を買って低金利通貨を売るキャリートレードが市場の動きを主導するなかで、ドルとユーロは次第にペースを落としながらも政策金利の引き上げが続いたことを背景に上昇しました。欧州で景気の先行きに対する悲観的な見方が後退したことを受けてユーロはドルに対しても上昇しました。円は金融緩和が長期間維持され、ドルやユーロなどとの金利差が大きい状況が続くとの見方を背景に下落しました。

期の初めは、日本銀行が長期金利の上昇を許容する政策変更を行ったことを受けて金融緩和の縮小観測が強まって円が上昇し、対ドル、対ユーロで円高となりました。その後は日本で金融緩和が長期間続くとの見方が強まって円安基調となりました。3月には米国での地方銀行の破綻をきっかけに金融不安が高まったことを受けて米国やユーロ圏



で金融引き締め観測が後退して、対ドル、対ユーロで円高となる局面がありました。しかし、その後は米国やユーロ圏で政策金利が一段と引き上げられる一方で、日本では金融緩和の長期化観測が維持されたことから対ドル、対ユーロで円安基調となりました。7月には米国やユーロで物価上昇が落ち着く兆候が確認されて金融引き締め観測が後退しドルやユーロが軟調となる一方で、日本で物価の上昇が続いていることを背景に金融緩和の縮小観測が強まって円が上昇して対ドル対ユーロで円高となりました。8月以降は、米国やユーロ圏で政策金利が長い期間高い水準で維持されるとの見方が強まる一方で、日本ではマイナス金利を含む金融緩和策が長期間維持されるとの見方が強まったことから対ドル、対ユーロで円安基調となりました。12月は米国やユーロ圏で政策金利の早期引き下げ観測が強まった一方で、日本で金融緩和の縮小観測が強まったことを受けて対ドル、対ユーロで円高となりました。

## 当ファンドの運用経過と結果

当期も、引き続き積み立てなどのご購入により受益者の皆さまからお預かりした資金を利用して定められた投資比率に従って各ファンドへの投資を行い、株式と債券の比率が目標から乖離した局面では、比率が上昇したファンドを売却して比率が低下したファンドを購入することによりリバランスを行いました。その結果、当期の購入から売却を差し引いた純投資額は、債券ファンドが株式ファンドを上回りました。なお、期中の資産配分比率に大きな変動はありません。

### ここをCHECK!

#### <参考情報>

期中の売買及び取引の状況 (2022年12月13日から2023年12月11日)

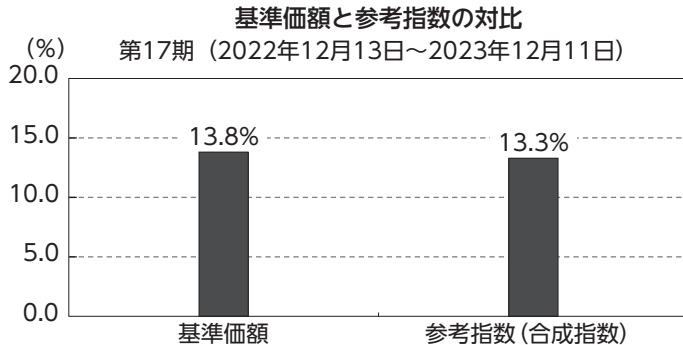
投資証券		買付		売付		
		口数	金額	口数	金額	
外 国	アメリカ	バンガード・500・インデックス・ファンド	千口 167	千米ドル 60,835	千口 92	千米ドル 36,155
	ヨーロッパ	バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド	千口 21	千円 440,000	千口 16	千円 360,000
		バンガード・ジャパン・ガバメント・債券・インデックス・ファンド	184	1,890,000	114	1,180,000
		バンガード・パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド	千口 22	千米ドル 3,000	千口 22	千米ドル 3,200
		バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド	98	11,700	64	8,100
	アジア	バンガード・U.S.・ガバメント・債券・インデックス・ファンド	747	81,300	103	11,000
		バンガード・ヨーロピアン・ストック・インデックス・ファンド	千口 68	千ユーロ 12,300	千口 68	千ユーロ 13,000
		バンガード・ユーロ・ガバメント・債券・インデックス・ファンド	805	85,300	90	9,500

- ・金額は受渡し代金です。
- ・千単位未満を切り捨てて表示しております。



## 当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の当期の騰落率の対比です。



- ・当ファンドにはベンチマークがないため、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数のMSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス (配当込) とブルームバーグ・グローバル国債：G7インデックスを50%ずつ組み合わせた、委託会社が計算した合成指数を参考指数として記載しております。
- ・参考指数は、基準価額への反映を考慮して、2営業日前のものに、当日のわが国の対顧客電信売買相場の仲値を利用して円換算しております。

## 分配金

基準価額の水準、並びに市場環境等を考慮し、当期の分配については見送りとさせていただきます。なお、留保金につきましては、元本部分と同様の運用を行って参ります。

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項 目	第17期
	2022年12月13日～2023年12月11日
当期分配金	-
(対基準価額比率)	-
当期の収益	-
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	13,585

- ・対基準価額比率は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

## 今後の運用方針

---

定められた投資比率に従い各ファンドへの投資を行います。原則として積み立てなどでのご購入により受益者の皆さまからお預かりした資金を利用して、目標とする投資比率に沿うように各ファンドへの投資を行い、目標とする比率から一定の乖離が生じた場合はファンドの売却と購入による比率の調整を行います。

マルチマネージャー運用部長 瀬下 哲雄

## お知らせ

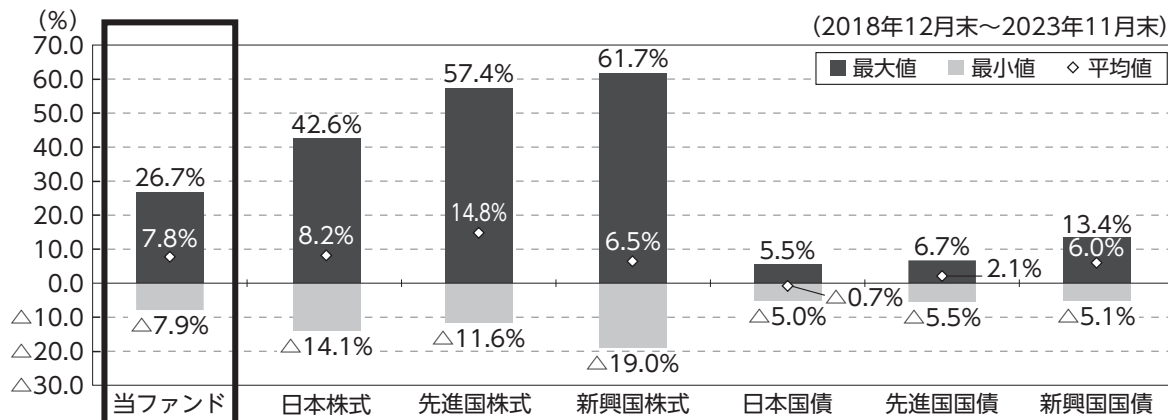
---

該当事項はありません。

## 当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／内外／資産複合
信 託 期 間	無期限
運 用 方 針	<p>信託財産の長期的な成長を図ることを目的として、主として米国バンガード社が運用するインデックスファンドの中から資産規模、運用実績、コストなどの面から厳選したファンドに分散投資します。具体的な資産配分は運用状況ならびに市場状況に応じて随時変更(増減ならびに入替など)します。</p> <p>原則として、為替ヘッジは行いません。</p>
主 要 投 資 対 象	有価証券に投資する外国投資証券を投資対象とします。
運 用 方 法	<p>当ファンドの運用は、ファンド・オブ・ファンズ方式とし、米国バンガード社が設定したインデックス型の外国投資証券への投資を通じて、世界各国の株式および債券に実質的に分散投資します。</p> <p>株式と債券の基本資産配分比率は、原則として株式50%、債券50%とします。</p> <p>株式、債券の地域別配分比率は、それぞれの市場時価総額(規模)を勘案して行います。</p>
分 配 方 針	<p>毎決算時に、基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象が少額の場合には分配を行わないこともあります。</p> <p>信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づき運用を行います。</p> <p>当ファンドは、分配金再投資専用とします。収益分配金は、税金を差し引いた後、再投資されます。</p>

## (参考情報) 当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- ・全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- ・2018年12月から2023年11月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
- ・上記の騰落率は、直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり決算日に対応した数字とは異なります。

## 《各資産クラスの指数》

日本株式：MSCI ジャパン・インデックス(配当込)  
 先進国株式：MSCI ワールド・インデックス(配当込)  
 新興国株式：MSCI エマージング・マーケット・インデックス(配当込)  
 日本国債：ブルームバーグ・グローバル国債：日本インデックス  
 先進国国債：ブルームバーグ・グローバル国債：G7インデックス  
 新興国国債：ブルームバーグ新興市場自国通貨建て国債インデックス

- ・全ての指数は米ドル建てのものをわが国の対顧客電信売買相場の仲値を利用して円換算しております。

- ・[MSCIジャパン・インデックス(配当込)]は、MSCIが開発したインデックスであり、日本の株式で構成されています。当該インデックスに関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・[MSCIワールド・インデックス(配当込)]は、MSCIが開発したインデックスであり、世界の先進国の株式で構成されています。当該インデックスに関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・[MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込)]は、MSCIが開発したインデックスであり、世界の新興国の株式で構成されています。当該インデックスに関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・[MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(配当込)]は、MSCIが開発したインデックスであり、先進国23カ国と新興国24カ国の計47カ国で構成されています。当該インデックスに関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・[Bloomberg®]は、Bloomberg Finance L.P.、および同インデックスの管理者であるBloomberg Index Services Limited (以下「BISL」)をはじめとする関連会社(以下、総称して「ブルームバーグ」)のサービスマークです。ブルームバーグは、ブルームバーグ指数に対する一切の専有権を有しています。ブルームバーグは、このマテリアルを承認もしくは支持するものではなく、また、このマテリアルに含まれるいかなる情報の正確性もしくは完全性についても保証するものではなく、明示黙示を問わず、このマテリアルから得られる結果に関していかなる保証も行わず、また、法律上認められる最大限において、ブルームバーグはこのマテリアルに関して生じるいかなる侵害または損害についても何らの責任も債務も負いません。

## 当ファンドのデータ

### 当ファンドの組入資産の内容

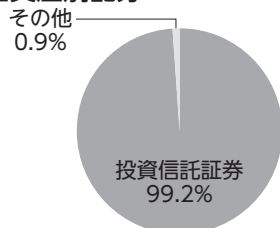
(2023年12月11日現在)

#### ■組入ファンド

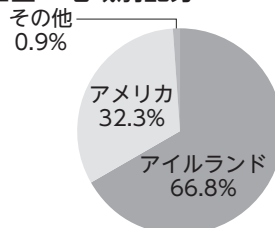
	第17期末(2023年12月11日)
	組入比率
バンガード・500・インデックス・ファンド	32.3%
バンガード・U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	26.9%
バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	18.8%
バンガード・ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド	8.2%
バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド	5.3%
バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	3.4%
バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド	2.9%
バンガード・パシフィック・エクス・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド	1.4%
その他(短期金融資産等)	0.9%
組入ファンド数	8銘柄

- ・組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。
- ・詳細は、運用報告書(全体版)に記載しております。
- ・小数点以下第1位未満を四捨五入して表示しているため、合計が一致しない場合があります。

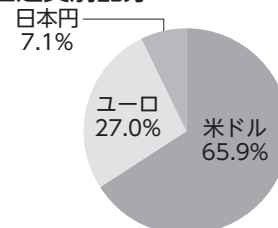
#### ■資産別配分



#### ■国・地域別配分



#### ■通貨別配分



- ・国・地域別配分は、投資しているファンドの発行国を表示しております。
- ・小数点以下第1位未満を四捨五入して表示しているため、合計が一致しない場合があります。



### ここをCHECK!

#### 投資対象別に分類した組入資産の状況

##### ■資産別配分

投資対象	組入比率	ファンド数
株式を中心に投資するファンド	50.1%	5銘柄
債券を中心に投資するファンド	49.1%	3銘柄
その他(短期金融資産等)	0.9%	—
合計	100.0%	8銘柄

##### ■地域別配分

投資対象	組入比率	ファンド数
米国を中心に投資するファンド	59.2%	2銘柄
欧州を中心に投資するファンド	27.0%	2銘柄
日本を中心に投資するファンド	6.3%	2銘柄
太平洋(日本を除く)を中心に投資するファンド	1.4%	1銘柄
新興国を中心に投資するファンド	5.3%	1銘柄
その他(短期金融資産等)	0.9%	—
合計	100.0%	8銘柄

- ・詳細は、「組入ファンドの概要」をご参照ください。
- ・小数点以下第1位未満を四捨五入して表示しているため、合計が一致しない場合があります。

## 純資産等

項 目	第17期末
	2023年12月11日
純 資 産 総 額	412,876,014,212円
受 益 権 総 口 数	184,726,546,055口
1 万 口 当 たり 基 準 価 額	22,351円

・期中における追加設定元本額は27,626,336,722円、同解約元本額は14,860,942,774円です。



## ここをCHECK!

・第17期における金額ベースの追加設定額は57,054,070,019円、同一部解約額は31,170,956,359円です。結果、第17期は差し引き25,883,113,660円の資金流入となりました。

・資産等の前期末の状況は以下のとおりです。

項 目	第16期末
	2022年12月12日
純 資 産 総 額	337,818,147,741円
受 益 権 総 口 数	171,961,152,107口
1 万 口 当 たり 基 準 価 額	19,645円

## 組入ファンドの概要

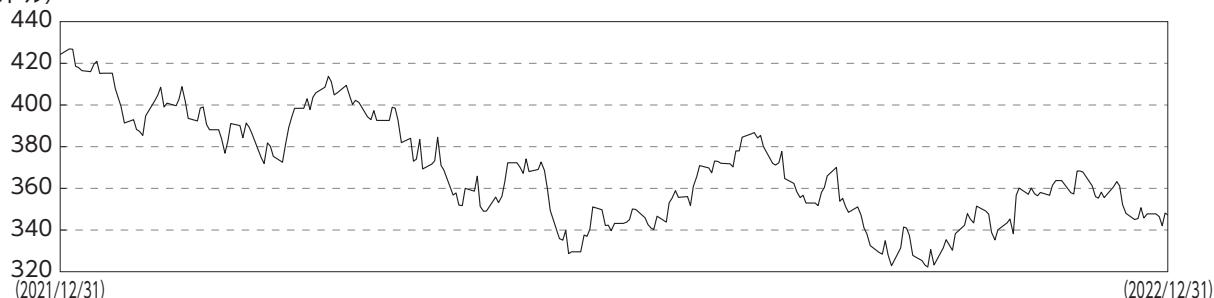
以下は当ファンドが投資対象としているバンガード社のファンドの現況です。詳細な内容につきましては運用報告書(全体版)に記載しております。

なお、以下の各項目の注記につきましては、21頁をご参照ください。

### 1. バンガード・500・インデックス・ファンド

#### ■基準価額の推移

(米ドル)



・グラフは分配金再投資基準価額です。

#### ■組入上位10銘柄

(2022年12月31日現在)

	銘柄名称	投資比率(%)
1	Apple Inc.	6.0
2	Microsoft Corp.	5.5
3	Alphabet Inc.	3.1
4	Amazon.com Inc.	2.3
5	Berkshire Hathaway Inc.	1.7
6	UnitedHealth Group Inc.	1.5
7	Johnson & Johnson	1.4
8	Exxon Mobil Corp.	1.4
9	JPMorgan Chase & Co.	1.2
10	NVIDIA Corp.	1.1
組入銘柄数		506銘柄

#### ■1万口当たりの費用明細

単位当たり費用明細については、開示されていないため記載しておりません。

(ご参考)

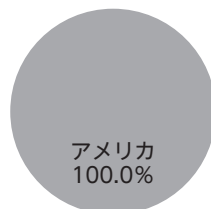
#### ■費用明細 (2022年12月31日現在)

ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率)(%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.03

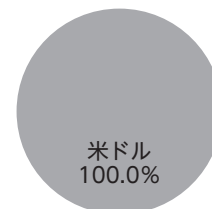
#### ■資産別配分



#### ■国・地域別配分



#### ■通貨別配分

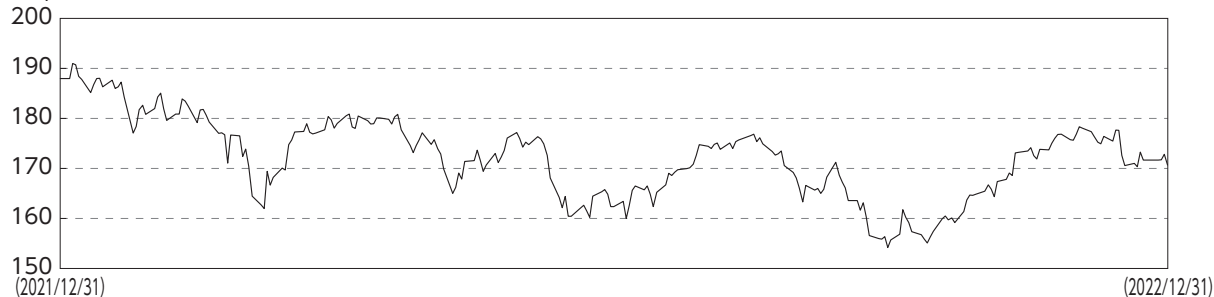




## 2. バンガード・ヨーロピアン・ストック・インデックス・ファンド

## ■ 基準価額の推移

(ユーロ)



## ■ 組入上位10銘柄

(2022年12月31日現在)

	銘柄名称	投資比率(%)
1	Nestle SA	3.4
2	Roche Holding AG	2.5
3	Novo Nordisk A/S	2.4
4	ASML Holding NV	2.4
5	AstraZeneca plc	2.3
6	Shell plc	2.2
7	LVMH Moet Hennessy Louis Vuitton SE	2.2
8	Novartis AG	2.1
9	TotalEnergies SE	1.7
10	Unilever	1.4
	組入銘柄数	434銘柄

## ■ 1万口当たりの費用明細

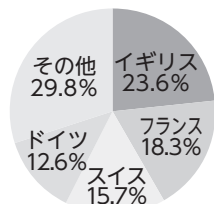
単位当たり費用明細については、開示されていないため記載しておりません。

(ご参考)

## ■ 費用明細 (2022年12月31日現在)

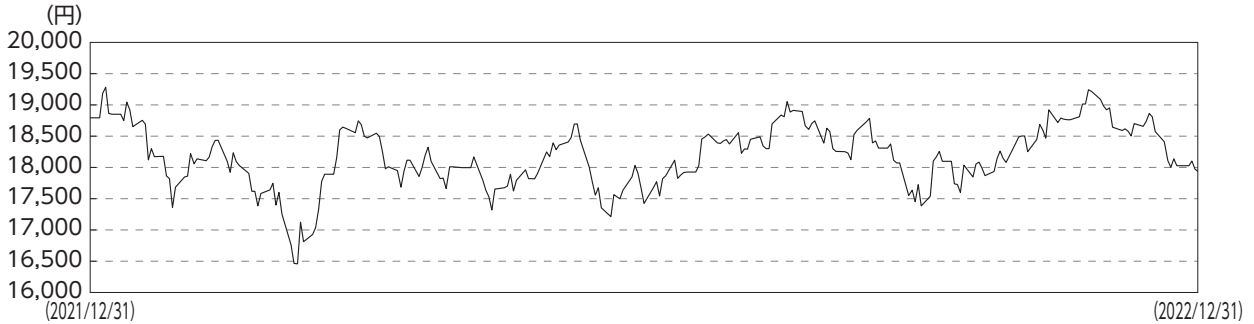
ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率)(%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.08

## ■ 国・地域別配分



## 3. バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド

## ■基準価額の推移



## ■組入上位10銘柄

(2022年12月31日現在)

	銘柄名称	投資比率(%)
1	トヨタ自動車	4.6
2	ソニー	3.0
3	三菱UFJフィナンシャル・グループ	2.5
4	キーエンス	2.4
5	第一三共	1.8
6	三井住友フィナンシャルグループ	1.6
7	ソフトバンクグループ	1.6
8	日立製作所	1.5
9	KDDI	1.5
10	武田薬品工業	1.5
	組入銘柄数	237銘柄

## ■1万円当たりの費用明細

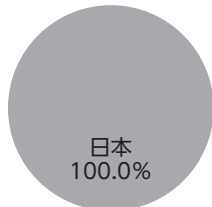
単位当たり費用明細については、開示されていないため記載しておりません。

(ご参考)

## ■費用明細 (2022年12月31日現在)

ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率)(%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.12

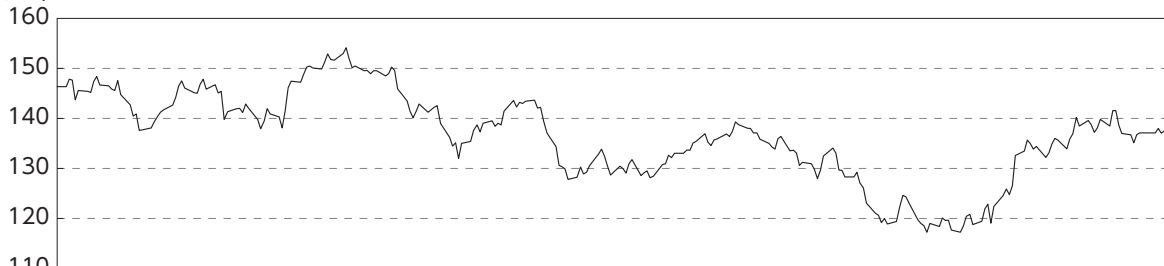
## ■国・地域別配分



## 4. バンガード・パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド

## ■基準価額の推移

(米ドル)



(2021/12/31)

(2022/12/31)

## ■組入上位10銘柄

(2022年12月31日現在)

	銘柄名称	投資比率(%)
1	BHP Group Ltd.	8.6
2	AIA Group Ltd.	7.3
3	Commonwealth Bank of Australia	6.5
4	CSL Ltd.	5.2
5	National Australia Bank Ltd.	3.6
6	Westpac Banking Corp.	3.1
7	Hong Kong Exchanges & Clearing Ltd.	2.9
8	ANZ Group Holdings Ltd.	2.6
9	DBS Group Holdings Ltd.	2.5
10	Woodside Energy Group Ltd.	2.5
	組入銘柄数	119銘柄

## ■1万口当たりの費用明細

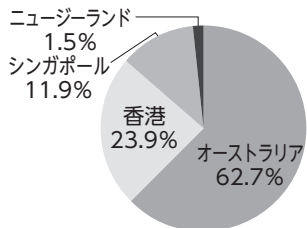
単位当たり費用明細については、開示されていないため記載しておりません。

(ご参考)

## ■費用明細 (2022年12月31日現在)

ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率)(%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.12

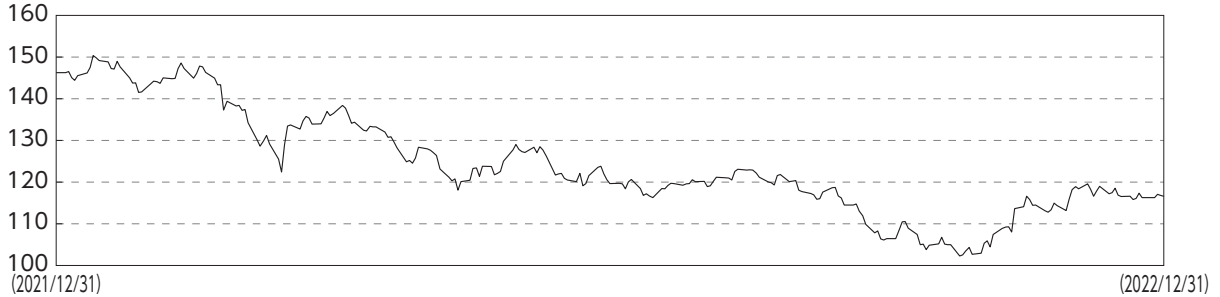
## ■国・地域別配分



## 5. バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド

## ■基準価額の推移

(米ドル)



## ■組入上位10銘柄

(2022年12月31日現在)

	銘柄名称	投資比率(%)
1	Taiwan Semiconductor Manufacturing Co. Ltd.	5.5
2	Tencent Holdings Ltd.	4.1
3	Samsung Electronics Co. Ltd.	3.7
4	Alibaba Group Holding Ltd.	2.5
5	Meituan	1.5
6	Reliance Industries Ltd.	1.4
7	Vale SA	1.0
8	Infosys Ltd.	0.9
9	JD.com Inc.	0.9
10	China Construction Bank Corp.	0.9
組入銘柄数		1,395銘柄

## ■1万口当たりの費用明細

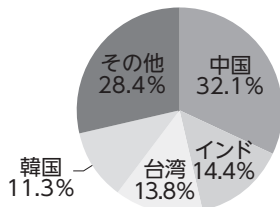
単位当たり費用明細については、開示されていないため記載しておりません。

(ご参考)

## ■費用明細 (2022年12月31日現在)

ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率)(%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.16

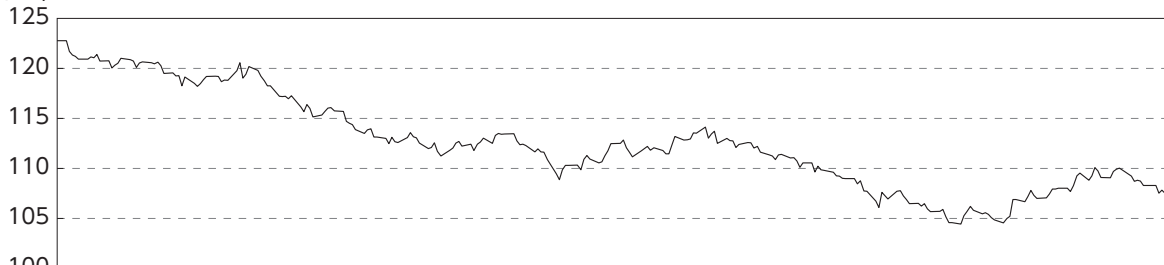
## ■国・地域別配分



## 6. バンガード・U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド

## ■基準価額の推移

(米ドル)



(2021/12/31)

(2022/12/31)

## ■組入上位10銘柄

(2022年12月31日現在)

	銘柄名称	投資比率(%)
1	US TREASURY NOTE	1.08
2	US TREASURY NOTE	0.96
3	US TREASURY NOTE	0.95
4	US TREASURY NOTE	0.90
5	US TREASURY NOTE	0.87
6	US TREASURY NOTE	0.86
7	US TREASURY NOTE	0.86
8	US TREASURY NOTE	0.81
9	US TREASURY NOTE	0.74
10	US TREASURY NOTE	0.72
組入銘柄数		364銘柄

## ■1万口当たりの費用明細

単位当たり費用明細については、開示されていないため記載しておりません。

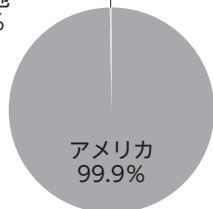
(ご参考)

## ■費用明細 (2022年12月31日現在)

ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率)(%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.06

## ■国・地域別配分

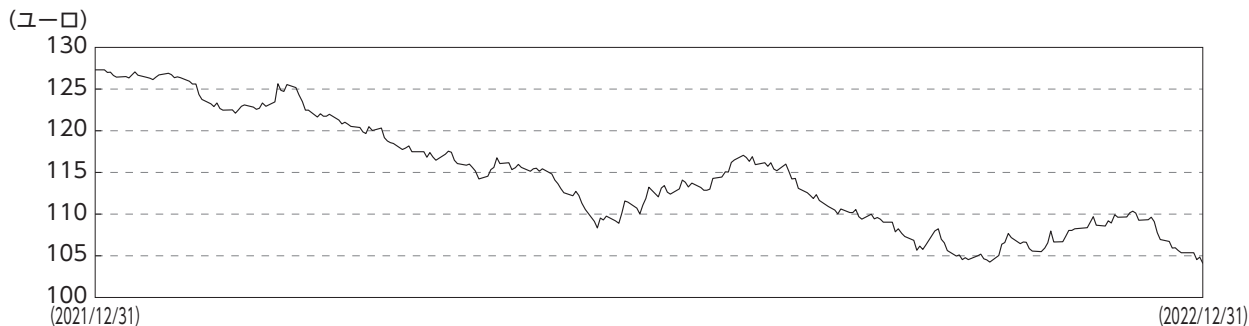
その他  
0.1%



アメリカ  
99.9%

## 7. バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド

## ■基準価額の推移



## ■組入上位10銘柄

(2022年12月31日現在)

	銘柄名称	投資比率(%)
1	REPUBLIC OF ITALY BOND	2.25
2	KINGDOM OF SPAIN BOND	1.41
3	KINGDOM OF SPAIN BOND	1.29
4	KINGDOM OF SPAIN BOND	0.89
5	REPUBLIC OF ITALY BOND	0.83
6	FRENCH REPUBLIC BOND	0.83
7	FRENCH REPUBLIC BOND	0.75
8	REPUBLIC OF AUSTRIA BOND	0.75
9	REPUBLIC OF ITALY BOND	0.73
10	KINGDOM OF SPAIN BOND	0.73
組入銘柄数		885銘柄

## ■1万円当たりの費用明細

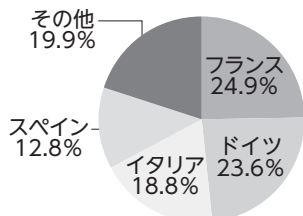
単位当たり費用明細については、開示されていないため記載しておりません。

(ご参考)

## ■費用明細 (2022年12月31日現在)

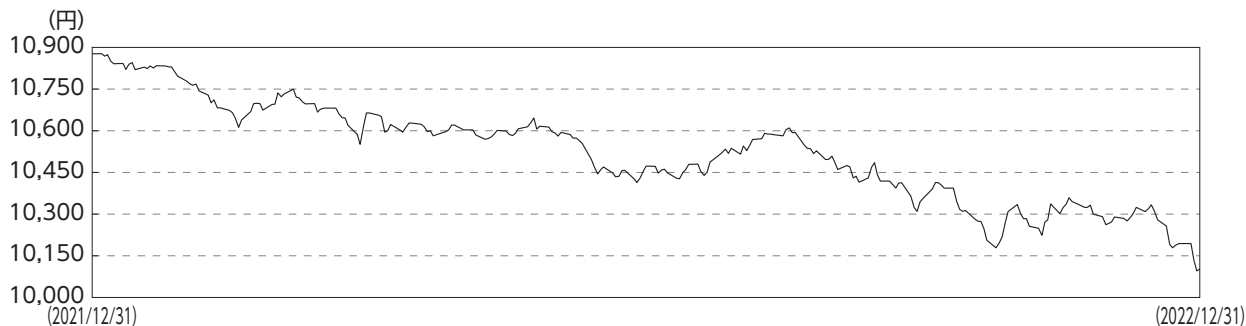
ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率)(%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.06

## ■国・地域別配分



## 8. バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド

## ■ 基準価額の推移



## ■ 組入上位10銘柄

(2022年12月31日現在)

	銘柄名称	投資比率(%)
1	第154回利付国債(5年)	1.59
2	第153回利付国債(5年)	1.12
3	第436回利付国債(2年)	1.01
4	第150回利付国債(5年)	0.93
5	第152回利付国債(5年)	0.88
6	第37回利付国債(30年)	0.88
7	第368回利付国債(10年)	0.81
8	第35回利付国債(30年)	0.78
9	第151回利付国債(5年)	0.75
10	第33回利付国債(30年)	0.74
	組入銘柄数	343銘柄

## ■ 1万口当たりの費用明細

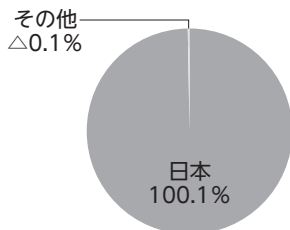
単位当たり費用明細については、開示されていないため記載しておりません。

(ご参考)

## ■ 費用明細 (2022年12月31日現在)

ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率)(%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.06

## ■ 国・地域別配分





- ・費用明細に記載されている運用管理費率とは、平均純資産総額に対する運用および管理等にかかる費用の総額の比率を示したものです。
- ・投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の評価金額の比率です。
- ・資産別配分、通貨別配分は、ファンドの純資産総額に対する比率です。
- ・国・地域別配分は、ファンドの投資資産に対する比率です。
- ・バンガード・500・インデックス・ファンド以外の資産別配分、通貨別配分は、開示されていないため記載しておりません。

[R&Iファンド大賞]は、R&Iが信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報(ただし、その正確性及び完全性につきR&Iが保証するものではありません)の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務(信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務)です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR&Iに帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。

リフィニティブ・リッパー・ファンド・アワードは毎年、多くのファンドのリスク調整後リターンを比較し、評価期間中のパフォーマンスが一貫して優れているファンドと運用会社を表彰いたします。

選定に際しては、「Lipper Leader Rating (リッパー・リーダー・レーティング) システム」の中の「コンシスタント・リターン(収益一貫性)」を用い、評価期間3年、5年、10年でリスク調整後のパフォーマンスを測定いたします。評価対象となる分類ごとに、コンシスタント・リターンが最も高いファンドにリフィニティブ・リッパー・ファンド・アワードが贈られます。詳しい情報は、[lipperfundawards.com](http://lipperfundawards.com)をご覧ください。Refinitiv Lipperは、本資料に含まれるデータの正確性・信頼性を確保するよう合理的な努力をしていますが、それらの正確性については保証しません。

## TOPICS：《当社の直接販売の状況 第17期（2022年12月13日～2023年12月11日）》

## ○ 当期間のふりかえり

2023年 4月	純資産総額（直販と販売会社の合計） 6,000億円を突破
11月	純資産総額 7,000億円を突破

## ○ 2023年12月11日現在 お客さま口座数 157,282件(前期末比+0.6%)

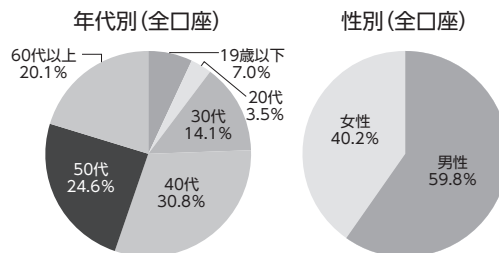
当期間でお客さまは946名増え、前期間の増加数と比べると1,389件減少しました。

また「つみたてNISA」は33,369名(当期間で501件増)、「ジュニアNISA」は6,283名(当期間で315件減)のお客さまにご活用いただいています。※NISAに関する数値は2023年11月末時点(前期末のお客さま口座数156,336件、前期間の口座増加数+2,960件)

## ○ お客さまの特徴

前期との比較では、性別構成に大きな変化はありませんでしたが、年代構成では、「50代」、「60代以上」の構成比率が増加しています。

口座開設から長期投資を継続いただいたお客様が年数を経たことで、年代の高いお客様の構成比率が少しずつ上昇しています。



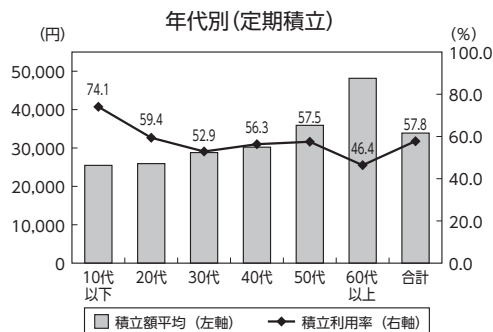
## ○ ファンドの設定・解約の状況

当期間の追加設定金額は前期間を若干下回る程度で推移しましたが、解約金額が増加したことで、当期間の純資金流入額は、前期間の金額296.2億円から減少し、76.3億円となりました。

## ○ 定期積立プラン

当サービスの全体の利用率は57.8%、60代以上を除き各年代のお客さまの5割以上の方がご利用されています。積立額の平均は33,889円と前期間から573円低くなりました。

・定期積立プランは、当社が運用、販売するファンド3種類のいずれか、もしくは複数のファンドで定期積立サービスをご利用いただいている方を対象としてデータを作成しています。また積立額平均、利用率は2023年11月時点の数値であり、積立額の平均は増額月の増額分の金額を含まない、一顧客あたりの平均値です。



お客さまに寄り添う運用会社を目指して、「セゾン顧客本位の相談室」の運営、対面やオンラインでのセミナーを引き続き実施し、お客様の長期投資に役立つ情報をお届けしてまいりました。さらに、お客様の利便性をより高めるため、2024年1月に新ネット取引「セゾンとつづく」をリリースいたします。お客様の長期投資を、二人三脚で支えさせていただくツールとして、パソコンやスマートフォンからスムーズにお手続き、お取引いただけるようになります。また、この「セゾンとつづく」を通してお手続きいただくことで、クレジットカード決済での積立でもご利用いただけるようになります。

引き続き今あるサービスの向上、新しいサービスの開始の両面に取り組んでまいりますので、ぜひご期待ください。これからも投資家の皆さまと共に長期で成長を目指す会社として、誠実なサービスのご提供に努めてまいります。

※お客さまの特徴や口座、金額は、保有しているファンドの種類や有無に関係なく、当社に口座を開設していただいている直接販売のお客さまを集計したものととなります。

※金額は、明記されたものを除き当社が2023年12月11日現在、運用、販売するファンド3種類を合計した数値となっています。